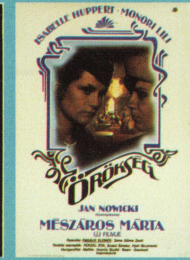
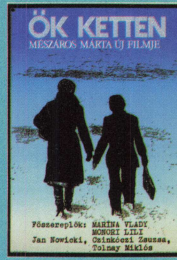
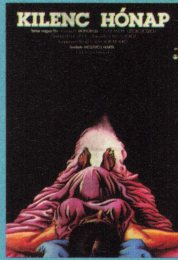
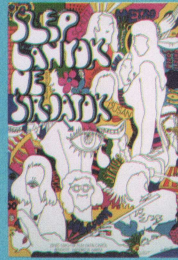


最高傑作の数々を世に送り出した、ハンガリーを代表する女性監督メーサーロシュ・マールタの作品が日本でも鑑賞できるようになることを歓迎します。人間ドラマとハンガリーの20世紀の歴史も描かれる作品を是非ご覧ください。

パラノビチ・ノルバート(駐日ハンガリー国特命全権大使)

1975年、『アダブション／ある母と娘の記録』で女性監督として史上初めてベルリン国際映画祭 金熊賞に輝いたメーサーロシュ・マールタ。アニエス・ヴァルダやヴェラ・ヒティロヴァらと並ぶ女性作家のバイオニアでありながら、今まで日本で劇場公開されることはなかった。幼いころに戦争を経験し、ハンガリーとソヴィエトとを行き来せざるを得なかった彼女の作品は、世界情勢が不安定な今だからこそ、私たちの胸に突き刺さり、新たな視点を提案してくれるものばかりだ。

## Mészáros Márta



★『ドント・クライ プリティ・ガールズ!』 Szép lányok, ne sírjatok! (1970)

★『アダブション／ある母と娘の記録』 Örökbefogadás (1975)

\*1975年 第25回ベルリン国際映画祭 金熊賞

OCIC特別賞

C.I.D.A.L.C. Award 名誉賞

Interfilm Award – Otto Dibelius Film Award

★『ナイン・マンズ』 Kilenc hónap (1976)

\*1977年 第30回カンヌ国際映画祭 国際映画批評家連盟 (FIPRESCI) 賞

1977年 第27回ベルリン国際映画祭 OCIC特別賞

★『マリとユリ』 Ők ketten (1977)

★『ふたりの女、ひとつの宿命』 Örökség (1980)

© National Film Institute Hungary - Film Archive 後援: 駐日ハンガリー大使館 / リスト・ハンガリー文化センター  配給: 東映ビデオ

かけがえのない、ささやかな抵抗



### 【監督:メーサーロシュ・マールタとは】

1931年、ハンガリーの首都ブダペシュトに生を受ける。ファシズムが台頭する戦間期、両親とともにキルギスへ逃れるも、父親はスターリンの粛清の犠牲となり、その後、母は出産で命を落とした。ソヴィエトの孤児院に引き取られ、戦後ようやくハンガリーへ帰郷する。

1968年から長編映画を撮り始める。残酷な社会のなかで日々決断を迫られる女性たちの姿を描きながら、ファシズムの凄惨な記憶や、東欧革命の前兆であるハンガリー事件の軌跡など、そのまなざしは暴力と化す社会の相貌をも見逃さない。

2017年より初期作品が次々と修復され、2019年のベルリン国際映画祭や2021年のカンヌ国際映画祭で上映され、今、世界的にその作品の再評価が進んでいる。

〈劇場拡大のためのクラウドファンディング実施中〉

一人でも多くのお客様に作品を届けたく、みなさまからのご支援を募っております。

<https://motion-gallery.net/projects/MeszárosMarta>



2023 年初夏 新宿シネマカリテほか 全国順次公開



Mészáros Márta

# メーサーロシュ・マールタ監督特集上映

ハンガリーが誇る映画監督の一人であり

女性として初めてベルリン国際映画祭金熊賞に輝いた

メーサーロシュ・マールタ。

その後も、カンヌ国際映画祭での受賞歴をはじめ

国際的な評価を得ながらも

彼女の作品はいずれも日本では劇場未公開。

女性の主体性を脅かす社会の相貌にカメラを向けてきたメーサーロシュ。

その誠実なまなざしが、時代を超え、今ここに。